

## 全国英語教育学会 平成26年度第2回理事会議事録

■日時 平成26年8月8日(金) 14:30～18:00

■場所 徳島大学常三島キャンパス 総合科学部1号館304 (北棟)

### ■出席者

卯城祐司(会長), 萬谷隆一(副会長・北海道), 早瀬光秋(副会長・中部), 石塚博規(理事・北海道), 佐久間康之(理事・東北), 野呂徳治(理事・東北), 松沢伸二(理事・関甲信), 大井恭子(理事・関甲信), 紀要編集委員長・関甲信), 紺渡弘幸(理事・中部), 村田純一(理事・関西), 大和知史(理事・関西), 高橋俊章(理事・中国), 飯島睦美(理事・中国), 伊東治巳(理事・四国), 徳島研究大会実行委員長), 那須恒夫(理事・四国), 大坪喜子(理事・九州), 島谷浩(理事・九州)

<以下, オブザーバー>

松本達也(前会長代行副会長・選挙管理委員会委員長), 佐藤臨太郎(紀要編集副委員長), 猫田英伸(紀要編集副委員長), 鈴木智己(幹事・北海道), 金子淳(幹事・東北), 本田勝久(幹事・関甲信), 橋本健一(幹事・関西), 猫田和明(幹事・中国), 山森直人(幹事・四国), 徳島研究大会事務局長), 大下晴美(幹事・九州), 犬塚博彦(会計監査・東北), 廣森友人(事務局長・関甲信), 深澤真(事務局・関甲信), 阿部真理子(事務局・関甲信), 清水遥(事務局・関甲信), 泉恵美子(事務局・関西), 前田啓朗(事務局・中国)

理事会に先立ち, 卯城会長による挨拶と廣森事務局長による配布資料の確認が行われた。続いて, 議事に先立ち, 徳島研究大会における台風の対策について検討を行い, 次のように決定した。

### 【台風による影響に関して】

- ・1日目は変更せず, 2日目はシンポジウムと昼食時間を短縮し, 14:30に終了する。
- ・大会参加費の返金はせず, 代わりに予稿集を郵送する。
- ・発表予定者が大会に参加できなかった場合, 特に証明書は出さない。
- ・弁当代, 懇親会費の返金はしない。(その後, メール審議で修正)  
→お接待を重んじる四国の文化に加えて, 今回大会の運営に関わっていただいた旅行会社の営業努力で一部返金することができるようになり, そのことを該当する参加者に連絡した。
- ・宿泊費に関しては, 旅行会社に一任する。

続いて、議題に沿って審議が行われた。

## ■ 議 題

### 1) 次期会長選挙 候補者選考投票(第2回)について

- ・選挙管理委員会委員長の松本先生より、過日行われた会長選挙(第1回投票)についての報告があった。
- ・第1回投票として、投票権のある理事18名が投票を行った。その結果、投票数12票(すべて有効票)で、複数票を得たのは卯城会長と吉田会長代行副会長であった。複数票を得た候補者2名に意志確認を行い、そのうち吉田会長代行副会長が辞退した。そのため、会長選挙細則に基づき、第2回投票として卯城会長の信任投票を第2回理事会時に実施することとなった。
- ・第2回投票の結果、投票数17票(すべて有効票)、棄権1票で、卯城祐司現会長が次期会長候補者となった。

### 2) 事務局から総会に提起する議題について

- ・廣森事務局長より、第1号議案から第10号議案について説明、及び犬塚会計監査より、第4号議案「平成25年度会計監査報告」についての報告があり、それぞれ了承された。
- ・第10号議案として、浅野博顧問より、顧問職を退任したい旨の届けがあったことが報告され、了承された。

### 3) 紀要ARELE 26号について

- ・大井紀要編集委員長より、「採択基準」の変更について提案があり、次のように決定した。
  - 査読者3名の合計点(75点)のうち、おおむね70%以上のものを採択する。
  - 原則として、採択率(40%)、採択本数(25本)を目安とする。
  - 採択基準(B案)を学会ウェブサイト公表する。
  - 3人の査読者の間で極端な評価がついたため採択ラインに到達しなかった論文(false negative)に関しては、事務局が第三者に対して匿名性を確保した上で再査読を依頼する。
  - 極端な査読結果があった場合は、その理由に関してコメントを求める。
  - バックナンバーに関しては、希望者に郵送する(自己負担)。

### 4) 全国英語教育学会第40回研究大会記念特別誌について

- ・廣森事務局長より、6月に予定通り、記念特別誌が発行されたとの報告があった。

### 5) 各委員会からの提案について

#### ■ 研究企画委員会

・廣森事務局長(事務局・田中先生の代理)より、昨年度に実施された第1回英語教育セミナーについての報告と以下の提案があり、それぞれ了承された。

- 今後は年に3回程度を目途に、複数年かけて8地区すべてで開催できるように計画する。
- 講師に対する謝金が支払われていないため、支出が可能な方向で検討を行うことにする。

#### ■ 社会ニーズ対応推進委員会

・事務局の泉先生より、託児所の利用状況、教員研修講師派遣やその意見集約方法について、以下のような報告と提案があり、それぞれ了承された。

- 徳島大会の申し込みは1名であるが、引き続き、託児所を設けることを提案したい。
- 徳島大会時に配布するアンケートに自由記述欄を増やした。
- 教員研修講師派遣の希望者に登録用紙を配布する。
- 教員研修を担当する講師が固定化している傾向があるので、新たな講師を各地区で推薦してもらいたい。

#### ■ 広報・通信委員会

・廣森事務局長(事務局・浦野先生の代理)より、ニュースレターの発行や運用、賛助会員のウェブ広告について以下のような報告と提案があり、それぞれ了承された。

- ニュースレター(メールマガジン)の本格的な発行に向けて、現在仮運用中である。
- 500名以上の同時配信については、有償のサービスを利用することを検討する。
- 賛助会員のウェブ広告の掲載について、学会ウェブサイトのトップページ右上に250x250ピクセルのサイズの広告画像を掲載する。

#### ■ 学生・院生委員会

・事務局の清水先生より、大学生・大学院生フォーラムについて以下のような報告と提案があり、それぞれ了承された。

- これまでの満足度や来年度以降の希望調査を行う。
- 学生の参加を促進させるために、交通費を補助する案について検討を行う。
- 院生フォーラムの枠を拡大できないか、熊本研究大会事務局と検討を行う。

#### ■ 財務委員会

・事務局の深澤先生より、財政健全化への対策と現状報告があった。

- 平成26年度第1回理事会での審議結果に基づき、財政健全化のため今年度より全国大会補助費を廃止し、全国大会運営費を20万円から35万円へと引き上げた。
- 同じく、今年度より賛助会員費を1万円から3万円に引き上げた。

- 賛助会員は新規開拓を行った結果、第2回理事会開催時点で33社34口まで増えており、財政健全化に貢献していると考えられる。

#### 6) 第41回熊本研究大会について

- ・九州地区の大坪理事、大下幹事より、2015年度に行われる熊本研究大会の準備状況について説明があった。
  - 特別講演の候補者として、ラリー・スミス氏が提案され、了承された。
  - 大会は2015年8月22-23日、理事会、紀要編集委員会等は8月21日に熊本学園大学において開催される予定であることが報告された。
- ・各種研究フォーラムについて、各地区の担当割り当てに関する確認が行われた。

#### 7) 第41回熊本研究大会におけるシンポジウム及びワークショップについて

- ・事務局の前田先生より、シンポジウム・ワークショップについての説明があった。
  - ワークショップを2件（研究・授業実践に関するものを各1件）行う。
  - シンポジウム・ワークショップに関するテーマの詳細は、大会実行委員会と事務局（全国大会委員会）で連絡を取り合いながら決める。
  - シンポジウムの時間は例年通り、120分枠で行うこととする。
  - 大会パンフレット等の作成に向けて、各地区で各種研究フォーラムの準備を進めてほしい旨の依頼があった。

#### 8) 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に関する学会アピールについて

- ・卯城会長より、アピール文についての説明があり、了承された。

#### 9) その他

- ・卯城会長より、2015年度第1回理事会は2015年3月29日（日）に筑波大学東京キャンパス337会議室にて開催予定であるとの報告があった。
- ・本田幹事より、2016年度の研究大会は青山学院大学での実施を予定していること、日時等については今後検討の上、次回の第1回理事会で報告を予定しているとの発言があった。
- ・卯城会長より、言語系学会連合意見交換会に本学会も参加し、聾啞者への対応等について意見交換を行ったとの報告があった。

#### ■配布資料:

- 資料1 出席者名簿
- 資料2 総会議題(案)
- 資料3 全国英語教育学会紀要執筆要領 (ARELE 26号) (案)

資料4 全国英語教育学会各委員会からの報告

資料5 第41回熊本研究大会概要(案)

資料6 第41回熊本研究大会のシンポジウム及びワークショップ(案)(資料なし)

資料7 言語系学会連合第4回意見交換会議事録